

北海道総合地質学研究センター 第7回公開講座
北海道教育委員会 2019年度後期道民カレッジ連携講座

(地域活動コース) 指定

後援：札幌市，札幌市教育委員会，一般社団法人北海道地質調査業協会，北海道高等学校理科研究会



昭和56年洪水災害と ハザードマップの活用 (開催日：11月2日 土曜日)



十五島町内会15周年記念誌より

講師 関根 達夫(北海道総合地質学研究センター)

日時 2019年11月2日(土) 13:30-15:30(13:15 受付開始)

会場 かでる2-7 940 研修室(北海道立道民活動センター)

札幌市中央区北2条西7丁目

参加費 1,000円(高校生は半額です)

定員 40名

申込期限 2019年10月30日(余裕があれば前日まで受け付けます)

参加申込・問合せ先 E-Mail: office@hrcg.jp Tel: 080-5830-2016

(申込まれた方の個人情報は当センターのプライバシーポリシーに従い、適正に管理いたします)

この公開講座の経費の一部は「札幌市さぼーとほっと基金助成事業」の助成金を用いています。

特定非営利活動法人 北海道総合地質学研究センター

(<http://www.hrcg.jp/>)

札幌市
さぼーとほっと基金
助成事業

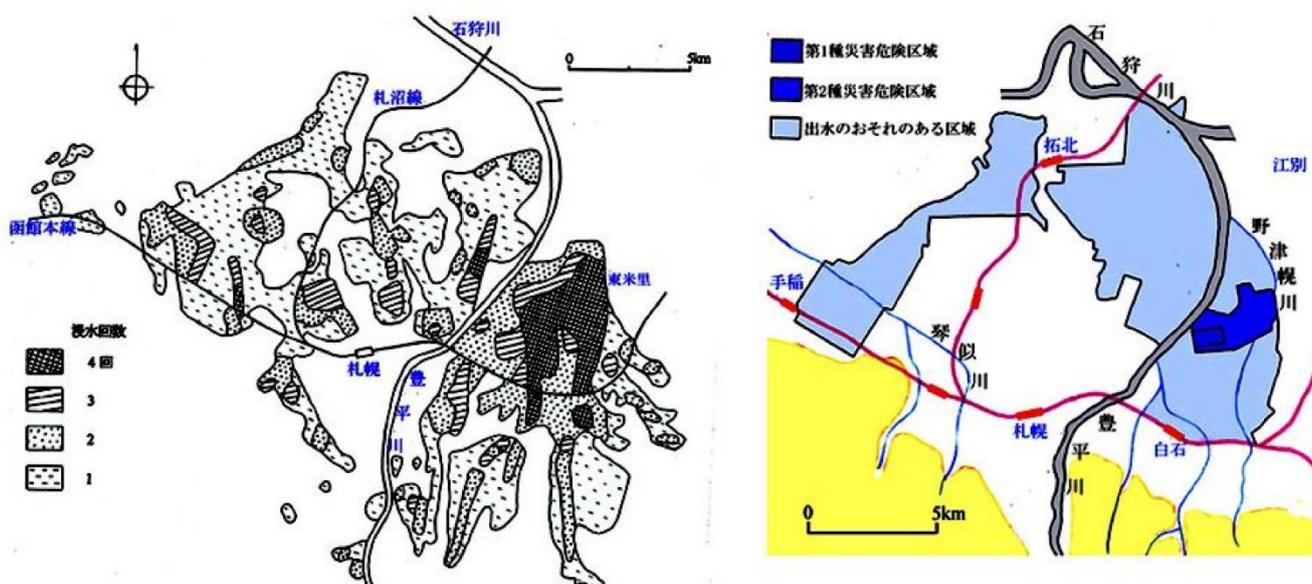


道民カレッジ単位認定
北海道地質調査業協会
CPD証明書発行

昭和 56 年災害から約 40 年経過し、当時を知る人も少なくなってきました。昭和 56 年（1981）は、8 月から 9 月までの 1 ヶ月間に札幌で 700mm 以上の雨が降るといふ異常な年でした。この豪雨で石狩川流域では 8 月上旬（3～8 日）と下旬（22～24 日）に大洪水が発生し、当時は「500 年に 1 回の洪水」とも言われました。

当時、講演者は南区藤野で 8 月下旬の豪雨による水害を経験しました。本講座では、その時の体験と、その後の町内会の防災活動に関わった経験を紹介し、札幌の地形・地質とそれらに関連した自然災害を解説し、ハザードマップや防災関連情報の活用方法などについて紹介します。

札幌市の北部低地における浸水頻度と建築構造規制



※国立研究開発法人 防災科学技術研究所 自然災害情報室、防災科学技術研究所ライブラリー 防災基礎講座「災害はどこでどのように起きているか」

講師のプロフィール

関根 達夫(せきね たつお)

北海道地域防災マスター

北海道総合地質学研究センター シニア研究員、理事

略歴

北海道音更町生まれ

1970 年 北海道大学理学部地質学鉱物学科卒業

1970 年～2008 年 (株)ドーコン地質部

2008 年～2011 年 北海道キング設計(株)

参加研究会：古藤野湖研究会、最終間氷期勉強会、石狩沖積低地研究会、レイチェル・カーソン北海道の会、日本写真測量学会北海道支部、日本地すべり学会北海道支部、日本応用地質学会北海道支部など



北海道総合地質学研究センターでは、公開講座等の情報をメールマガジン（HRCG Newsletter 不定期発行）で配信しています。購読をご希望の方は office@hrcg.jp 宛にお申込みください